

- 法統継承の年スタート□1
- 阿弥陀さまと私①□2
- 新・祖蹟点描①□3
- 鷺森別院報恩講特集□4
- 本山・教区・各組の動き□6
- つれもて聴こら□8



『紀伊国春原回会』描かれた江戸時代後期の鷺森御堂

2014年(平成26年)  
1月1日  
第99号

発行:「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

本願寺鷺森別院で11月24日から28日の5日間、恒例の報恩講が厳かに勤められた。和歌山教区内の門信徒を中心にした約800人が参拝、親鸞聖人の「ご恩に報いる」心持ちを高らかにうたいあげた。

## 鷺森別院の報恩講にぎわう

④ ⑤ 面報  
④ ⑤ 詳

# 法統継承の年

スタート

6月6日 第25代門主就任



昨年4月15日にご退任を発表されたご門主と法統継承される新門主さま

年が明ければ、浄土真宗本願寺派では「法統継承」という節目の年を迎える。現在、西本願寺住職と浄土真宗本願寺派門主を務める大谷光真門主(68)が6月5日で両職を退任、翌6日に法統継承式を行い、大谷光淳新門主(36)が両職を継承、第25代門主に就任される。



御正忌報恩講の御影堂内陣のお飾り  
(写真はいずれも本願寺新報社提供)

## 9日〜本山で御正忌報恩講

大谷光真門主が退任を発表されたのは、昨年4月15日の立教開宗法要最終日の「お言葉」のなかだった。1977年(昭和52)4月にご門主に就任されて37年、宗祖親鸞聖人以来の法統(仏法の伝統)は新しい世代へと継承されることに

なる。法統継承式(法要と式典)は6月6日、午前10時から西本願寺で。そんな節目の年が明けた1月9日から、西本願寺では恒例の「御正忌報恩講」が始まる。

親鸞聖人(1173〜1263)の祥月命日である1月16日(旧暦11月28日)までの7昼夜、聖人へのご恩報謝の心持ちを胸に、全国の門徒・僧侶が参集する、西本願寺最大の恒例法要。法要は、1月9日午後2時から16日正午までの間、連日、午前10時から日中法要、午後2時から速夜法要、同3時30分(15日は6時)から初夜法要が勤められる。

### 今号から紙面リニューアル

本紙は、より多くの方に親しんでいただきたいと、100号を目前に紙面をリニューアル。鷺森別院の活動と和歌山教区・教区内14組・ご本山の動きを一体的に分かりやすくお伝えします。新連載もスタート。

# 阿弥陀さま

## 仏事の手引きと私

浄土真宗におけるお仏壇は、浄土真宗の根本のご本尊である阿弥陀如来さまをご安置し、その阿弥陀さまの仏国浄土のありさまを表現した大切な場所です。

を「箱(箱型)仏壇」といいますが、この形のお仏壇その後全国各地で、地域

われています。これは、徳川幕府による「宗門改め」によって、だれもが必ずどこかの寺院に所属しなければならぬという「檀家制度」が確立された時期でした。

など、経済産業省による「伝統的工芸品指定」を受けた15地域のお仏壇の他に、およそ17もの地域それぞれ

### 仏壇の多様化

### ①お正月のお仏壇のお飾り

えの方もおられますが、ご先祖は、お仏壇の中やお墓の下におられるのではなく、阿弥陀如来さまの仏国浄土におられる方ですので、お仏壇が「先祖壇」や「位牌壇」にならないよう注意します。



正月らしくお飾りした仏壇の一例①。仏具はろうそく立てと花瓶を各一对(五具足)とし、前卓に打敷を掛け、お花には松・梅・センリョウをあしらった。供箭(くげ)などに乗せた鏡餅(かがもち)をお供えすれば完成。

## 気持ちも新たに「お参り」を

が初めて造られたのは、一説には、元禄年間(1688~1704)に現在の愛知県三河地方でだったと言

ごとの特色ある仏壇が製造されるようになり、現在では「京仏壇」「大阪仏壇」「名古屋仏壇」「金沢仏壇」

の産地名を冠した仏壇が、地域色豊かな仏壇造りの伝統を守っています。ほとんどの産地で柱とな

るのは、伝統的工法によって造られる、漆塗りを施し、内側には金箔を押し、いわゆる金仏壇ですが、徳島

### お飾りの基本

仏壇や静岡仏壇のように、唐木仏壇といわれる木の地肌を生かした仏壇を主に造っている産地もあります。さらに最近では、住環境の変化に対応して、家具調仏壇や現代仏壇といわれる仏壇も登場しています。

### ご本尊は「本山」が

仏壇店によっては、お仏壇に、いわゆる町版のご本尊を付けて販売している店

正式なものをお迎えしよう。

ご本尊をお荘厳(お飾り)する基本は「香・華・灯」、つまりお香・お花・お灯りで、そのための香炉・花瓶・ろうそく立てという三つの仏具を「三具足」といいます。配置は、中央に香炉、ご本尊に向かい右側がろうそく立て、左側が花瓶です。ろうそく立てと花瓶をそれぞれ一對にすると、「五具足」になります。

### 正月のお飾り

前卓(まじょう)三具足または五具足を置く台に打敷(うちしき)金欄(きんらん)などで作った敷物(敷物)を掛け、お花は松・梅・センリョウ、葉牡丹などを使い正月にふさわしいお花を生け、鏡餅などをお供えします。

もありませんが、これでは本末転倒です。大切なご本尊・お脇掛(わきかけ)をご安置するた

新たにお参りしましょう。(松本教智・「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員長)

### 仏壇の起源

**電話法** **おにさん**  
**073-422-0243**  
 こころの電話 (海南組西光寺) TEL(073) 487-2430  
 ヤングこころの電話 (同上) TEL(073) 487-0404  
 こころの電話 (御坊組専福寺) TEL(0738) 44-0874

# 新 祖蹟点描

## 1 法界寺



日野家代々の心のよりどころ、阿弥陀如来像

### 聖人も手を合わされた仏さま

流の日野家といわれる家系に生を受けられたことが分かる。そして『伝絵』は、「…皇太后宮大進有範の子なり」とその一文を結ぶ。親鸞聖人の父は「有範」という「皇太后宮大進」という役目を務める人だった。皇太后宮大進とは、皇太后に仕える官職のうち、大夫・亮に次ぐ三等官で、官位は従六位に相当するという。日野家の氏寺が今回訪れた法界寺。日野家は古来から京東南東の郊外、山科盆

地と木幡山にはさまれた「日野」の地を本拠としたことから、名字を日野と名乗り、法界寺を代々の心のよりどころとした。親鸞聖人もまたこの地で誕生され、幼少期に法界寺にお参りされたのではないかと推測されるゆえんである。法界寺の創建は1051年(永承6)。日野資業が62歳で出家し、薬師如来をご本尊として一寺を建立したことに始まるという。境内に入り、まず阿弥陀

九重の蓮華座の上に、上品上生印を結んで座られる円満でふくよかなお姿は、お仏像としても平安後期を代表する名作だという。内陣の上方、長押の上の四方に巡らされた小壁の両側のしっくいの上に描かれた飛天(遊泳する天女)の絵も見どころ。空中から阿弥陀さまに散華する姿が軽快なタッチで描かれている。阿弥陀堂と阿弥陀如来坐像は、いずれも昭和26年に国宝に指定されている。もともとは天台宗だった法界寺だが、1533年(天文2)真言宗に改宗して現在に。真言宗醍醐派。

# 親鸞聖人の出自・日野家の氏寺

本紙第93号から96号まで「親鸞聖人750大遠忌法要企画」として岩谷教授師(本願寺教学伝道研究所常任研究員)に連載いただいた「祖蹟点描」では、4回にわたり、宗祖親鸞聖人ゆかりの地である角坊(ご往生の地)、法界寺(ご誕生の地)、比叡山(ご修行の地)、法垂窟(法然上人との出遇いの地)を探訪。今号からは「新・祖蹟点描」と題し、すでに取り上げた地も含めて、あらためて親鸞聖人のみ跡を慕う旅へと出発します。

ときは平安時代の末期、平安遷都以来380年続いた貴族を主人公とする世のなかは、源氏・平氏という武士の台頭によって戦乱が頻発するなど不安定化し、やがて大きな転換点を迎えようとしていた。

1173年(承安3)、そのような不穏な空気が漂う時代に、親鸞聖人はこの世にご誕生された。その出自については、親鸞聖人のひ孫にあたる覚如上人は『本願寺聖人親鸞伝絵』の冒頭に、「それ聖人の俗姓は藤原氏…」と誇らかに記し、続けて聖人の家系の来歴を述べている。

それによれば、親鸞聖人は、貴族政権の中樞を担う藤原氏の本流からはやや離れた、傍



法界寺阿弥陀堂は温雅なたたずまい

**法界寺**

場所 京都市伏見区日野西大道町19  
 電話 075(571)0024

交通 京都駅からJR奈良線で約20分、  
 「六地藏」駅下車、同駅から京阪バス「日野誕生院」行で約15分、  
 「日野薬師」下車、すぐ。

堂(現堂は13世紀初頭建立という)にお参り。阿弥陀さまに手を合わせると、その荘厳な雰囲気は自然とお念仏の声がこぼれる。八画

【参考文献】『増補改訂・本願寺史』(本願寺出版社)、  
 『古寺巡礼 京都 29 法界寺』(淡文社) (本紙編集部)

# 午前は教化団体が「つどい」



仏教婦人会連盟のつどい(27日)



にぎにぎしく勤められた26日の法要

本願寺鷺森別院では11月24日から28日の5日間、恒例の報恩講が厳かに、またにぎにぎしく勤められた。連日午後1時30分(最終日は午前10時)からの法要は、高橋格昭輪番が導師を務め、和歌山教区内の僧侶が出勤してお勤め。参拝した和歌山教区内の門徒・僧侶らは親鸞聖人のご遺徳を

しのび、お勤めのあとは、栗原一乗師(本願寺派布教使)の法話を聴聞した。27日はお勤めのあと、高橋輪番が『御俗姓』(本願寺第8代蓮如上人が報恩講の際に示された教語)を拜読。午後7時から別院職員が『御伝鈔』(覚如上人が親鸞聖人の御一代を絵巻物にされた『本願寺聖人親

# 親鸞聖人のご遺徳しのび 鷺森別院で厳かに報恩講



本堂余間に奉懸された四幅の御絵伝



本堂でチャリティバザー



会議室ではうどんの接待



ホール喫茶コーナーでおもてなし



手作りの日用品も人気

報恩講の期間中、最終日を除く午前、和歌山教区の各教化団体のつどいも開かれた。24日は仏教壮年会連盟、25日は仏教婦人会連盟、27日は仏教婦人会連盟が、いずれも栗原師を講師に研修会を開催し、午後は報恩講に参拝した。26日の門徒総代会のつどいでは、寺院責任役員・門徒総代辞令伝達式が執り行われた。併せて和歌山教区僧侶・寺族物改者追悼法要が27日、書院で勤められた。

鷺伝絵の詞書部分)を拜読し、続く通夜布教では、栗原一乗師と和歌山教区内の布教使4人が一人45分の持ち時間で法話のリレー。深夜にあずきがゆの接待も。同じく27日は、昼休憩を利用して協賛の催しを開催。本派社会福祉推進協議会和歌山支部のチャリティーバザー、別院仏教婦人会のうどん・すし販売、別院若さぎ会の喫茶コーナー、和歌山組仏教婦人会のターナ活動(募金のための手作り日用品販売)でにぎわった。

報恩講とは 親鸞聖人の祥月命日の法要を、親鸞聖人の「ご恩に報いる集い」という意味で「報恩講」と名付けられたのは、聖人のひ孫で本願寺第3代門主の覚如上人。覚如上人は1294年(永仁2)に親鸞聖人の33回忌法要を勤められる際、聖人のご事績を讃仰されるとともに、お勤めの次第を定めるため『報恩講私記(式)』を撰述。これが報恩講の起源となった。

## 子ども報恩講 170人集う



親鸞聖人のご生涯をすごろくでたどる子どもたち

和歌山教区少年連盟では12月14日、子どもの集いを鷺森別院で開催。教区内170人の子どもたちが参加

して、報恩講をお勤めした。法要は、一人ひとりが作った粘土キャンドルを献灯し、170個のお光がともるなかで、らしいのうたをお勤めした。午後からは17班に分かれ、すごろくや竹馬などを楽しんだ。

法要は雅楽も入りにぎやかに



別院職員が御伝鈔拜読



御俗姓を拜読する高橋格昭輪番



通夜布教に出講した⑥から肥田真琴、藤俊乗、北本一紀、長谷川義則の各師



# 日高別院 華やかに報恩講



きれいに飾りされた日高別院本堂⑥に 献灯する御坊幼稚園の園児⑥

日高別院では12月4日から6日までの3日間、御坊組の僧侶・門徒が報恩講を勤修。講師は新潟の高橋純明師(本願寺派布教師)。5日午後1時から、御坊幼稚園の園児が親子で参拜。園児の献灯献花(続き)、親までお勤めし、法話を聴聞した。この日の参拝のしおりは、園児が心を込めて描いた阿弥陀さまの絵が表紙を飾り、報恩講に花を添えた。

本山

1~3月の催し  
 1月1日 元旦会(修正会)  
 1月9~16日 御正忌報恩講法要  
 1月12日 第62回本山成人式  
 3月17~23日 春季彼岸会

2月7~9日 近畿ブロック仏教青年連盟研修会 スキーツアー(長野県)  
 2月7日 近畿地区仏教婦人会連盟如月忌(西本願寺聞法会館)  
 2月12日 布教団連続法座(鷺森別院)  
 2月18、19日 第3連区青年布教使研修会(鷺森別院)  
 ※18日は、午後1時から3時30分まで公開布教大会

和歌山教区

2月22、23日 第3連区門徒推進員実践運動研修会(滋賀教区)  
 2月23日 門徒総代会モデル事業(和歌山東組善正寺)  
 2月24日 近畿ブロック仏教婦人会連盟推進協議会(神戸別院)  
 3月2日 連研修了者研修会(鷺森別院)  
 3月8、9日 第3連区仏教壮年会連盟連絡協議会(鷺森別院)  
 3月11、12日 門徒総代会念仏奉仕団(西本願寺)

青色青光

1~3月の催し  
 1月8日 布教団連続法座(鷺森別院)  
 1月15日 仏教婦人会連盟清掃奉仕(鷺森別院)  
 1月19日 門徒総代会剪定奉仕(鷺森別院)  
 1月27日 組長会(鷺森別院)  
 1月29、30日 本派矯正教化連盟大阪矯正管区支部一泊研修会  
 2月7日 近畿地区仏教婦人会連盟如月忌(西本願寺聞法会館)  
 2月12日 布教団連続法座(鷺森別院)  
 2月18、19日 第3連区青年布教使研修会(鷺森別院)  
 ※18日は、午後1時から3時30分まで公開布教大会  
 2月22、23日 第3連区門徒推進員実践運動研修会(滋賀教区)  
 2月23日 門徒総代会モデル事業(和歌山東組善正寺)  
 2月24日 近畿ブロック仏教婦人会連盟推進協議会(神戸別院)  
 3月2日 連研修了者研修会(鷺森別院)  
 3月8、9日 第3連区仏教壮年会連盟連絡協議会(鷺森別院)  
 3月11、12日 門徒総代会念仏奉仕団(西本願寺)

日高別院の催し

3月12日 布教団連続法座(鷺森別院)  
 ■常例法座 1月20日、横山大悟師(岐阜教区岐稲組・専琳寺)。午後1時30分。  
 ■春季彼岸会 3月22日、高橋格昭(日高別院輪番)。

今、できることを  
 助け合い募金

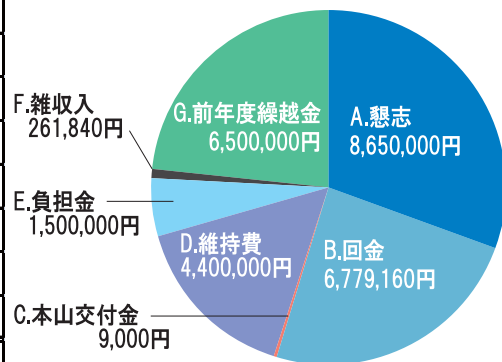


＝読売新聞社(大阪本社)提供＝

本派社会福祉推進協議会和歌山教区支部では12月2日、和歌山教区内の僧侶・門信徒55人が参加して「歳末助け合い街頭募金」を、JR和歌山駅と南海和歌山市駅で行った(写真)。集まった募金9万4800円は全額、読売光と愛の事業団に寄付した。

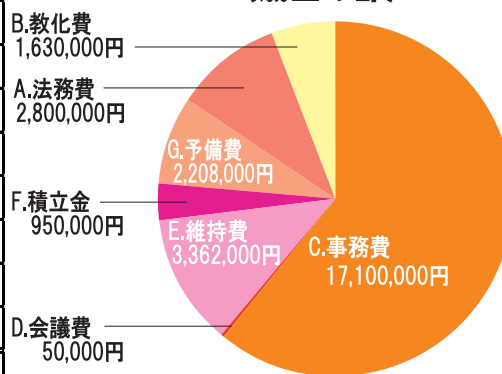
〈歳入の部〉

款目	予算額
A 懇志	8,650,000
B 回金	6,779,160
C 本山交付金	9,000
D 維持費	4,400,000
E 負担金	1,500,000
F 雑収入	261,840
G 前年度繰越金	6,500,000
歳入合計	28,100,000



〈歳出の部〉

款目	予算額
A 法務費	2,800,000
B 教化費	1,630,000
C 事務費	17,100,000
D 会議費	50,000
E 維持費	3,362,000
F 積立金	950,000
G 予備費	2,208,000
歳出合計	28,100,000



本願寺鷺森別院

2013(平成25)年度 一般会計歳計予算

(2013年3月29日に開催された責任役員・門徒総代会において門徒総代会に諮問し、総長の承認を得たものです)

# 青色青光

## 教区内各組

1~3月の催し

### 和歌山北組

1月18日 第4回連続研修会(善教寺)  
1月22日 仏教婦人会連盟

新年懇親会  
2月1日 第4回組内会

### 和歌山組

1月15、16日 門徒総会・  
仏教壮年会連盟合同の御正  
忌報恩講参拝研修旅行(西  
本願寺)

3月13、14日 念仏奉仕団  
(西本願寺)

### 加茂組

2月9日 第7回キッズサ  
ンガく子どもの集い(安  
養寺)

3月 加茂組仏教婦人会研  
修会(浄善寺)

### 海南組

2月7日 御同朋の社会を  
めざす運動(実践運動)推  
進協議会(了賢寺)

### 和歌山西組

3月11、12日 第2回念仏  
奉仕団(西本願寺)

### 海草組

2月 僧侶研修会・寺族婦  
人会研修会(報徳寺)

3月11、12日 第2回念仏  
奉仕団(西本願寺)

### 有田南組

2月8日 キッズサンガ  
(極楽寺)

2月13日 第5回連続研修  
会(本勝寺)

3月13日 第6回連続研修  
会(本勝寺)

### 日高組

1月25日 総代会後期研修  
会(蓮専寺)

2月4日 第2回仏教壮年  
会研修会(信行寺)

2月6日 寺族婦人会研修  
会(光専寺)

3月上旬 寺族婦人会報恩  
講(覚性寺)

3月1日 組内会(円行寺)

3月4日 第3回仏教壮年  
会研修会(円行寺)

3月8日 「御同朋の社会  
をめざす運動」(実践運動)

3月29日 組会(円行寺)

### 御坊組

1月18日 第6期連続研修  
会修了式(日高別院)

2月22日 「御同朋の社会  
をめざす運動」(実践運動)

**ラジオ放送番組**  
**みほとけとともに**  
- 西本願寺の時間 -

◆毎週土曜日  
◆午前5時50分から(10分間)  
- 和歌山放送(WBS) -  
和歌山・串本 1431kHz 田辺・すさみ 1233kHz  
橋本・高野山 1485kHz 新宮・御坊 1557kHz

### 有賀組

2月2日 「御同朋の社会  
をめざす運動」(実践運動)

3月2日 門徒総代会研修  
会(照円寺)

研修会(日高別院)

### 有田北組

期日未定 勤式講習会  
(極楽寺)

### 有田北組キッズサンガ

「ポップ道」を散策



有田北組では11月10日、  
キッズサンガくポップ道を  
歩こうを開催した(写真)。

参加した19人の小学生と  
保護者5人は、同組寺院僧  
侶・門信徒11人と一緒に、  
有田川町内にある旧有田鉄  
道の線路跡1・5キロを整備  
した道路「ポップ道」でウ  
オーキングを楽しんだ。

宗門では「次代を担う人  
の育成」のため、全寺院で  
の子どもの集いキッズサ  
ンガくの実施を目指してい

## 得度

9月15日 柳木顯治(伊  
那組玉川寺)▽加藤二末好  
(有田北組浄應寺)

10月15日 刀祇友里(和  
歌山組圓光寺)▽佐々木ゆ  
かり(御坊組安養寺)

敬 弔

## 敬弔

8~11月

▽庵戸トミエ(紀南組安  
楽寺・前々坊守) 8月13日

▽三谷静子(有田北組安楽  
寺・坊守) 9月17日▽杉山  
六雄(和歌山北組永正寺・  
衆徒) 10月3日▽中岡俊英  
(海南組願成寺・前住職)

10月9日▽谷河光哉(和歌  
山西組長楽寺・住職) 10月  
18日▽佐々木スマ(有田北  
組教念寺・前坊守) 10月26  
日▽根來泰周(和歌山東組  
玄妙寺・住職) 11月20日▽  
古河志珠(和歌山組専念  
寺・衆徒) 11月29日

ご生前のご活躍ご尽力に  
感謝申し上げ、謹んで敬弔  
の意を表します。

るが、有田北組でも一致団  
結して開催の運びとなった。

# つれもて 聴こら

〈法話のひろば〉

抄』に「縁」という詩があります。

「縁 縁 みな縁 困ったこともみな縁

南無阿弥陀仏に遇う縁」

まさに私たちの日常生活こそが、お念仏の道場と

言えるのではないのでしょうか。そもそも「道場」とい

て生きていくわけではありませぬ。喜びも悲しみも苦

う言葉は、梵語(サンスクリット語)のボーディ・マ

日ごろお勤めさせていた  
だく正信念仏偈のなかに、  
「唯能常称如来号  
応報大悲弘誓恩」  
とござります。

## 栗原一乗

ただよく常に如来の号を  
称して(常にお念仏を申し  
て)、阿弥陀さまの大悲弘  
誓(大悲のお誓い)のご恩  
を報ずべし、とのお言葉で



## 日常生活こそお念仏の道場

すが、この「常」とは、私  
の人生を貫いてということ  
でしょう。つまり日常生活  
です。  
私たちは日常生活を離れ

しみも日常の中にあります。  
その一つひとつの出来事を  
通して阿弥陀さまのお慈悲  
に遇わせていただくのです。  
木村無相さんの『念仏詩

ンダ(菩提樹下の金剛座)  
の訳語で、お釈迦さまの教  
えが堅固であることを、金  
剛石という堅くて丈夫な石  
に例えたものです。つまり、

仏道修行の場を指します。  
以前、62歳の女性の方が、  
新聞に次のような投稿をさ  
れていました。

「私は農家の長男に嫁い  
で40年近くになり  
ます。88歳になる

義母が2、3年前  
から軽い認知症に  
なり、一緒に暮ら  
している私のこと

がはつきり分から  
なくなつたのです。  
でもお風呂に入り、  
小さくなった背中  
を流したり、シャ  
ンプーをしてあげ  
ていると、『和江  
さん、私は世話に  
なつても恩返しが  
できんけえすまん  
ねえー。あんたは  
年をとつたらどう  
する』と私のこと  
を氣遣つてくれま  
す。やはり分かっ  
ていてくれると思  
うと、涙が止まりませんで  
した」

## いのちのよりどころに気付く

「先月サラリーマンの息  
子が外出して帰るなり『お

母さんにぴったりの良い言  
葉がお寺の前の黒板に書い  
てあったよ」と教えてくれ  
ました。それは「日常生活  
の外に浄土真宗の道場はな  
い」という言葉でした。あ  
あそうかと気付かせていた  
だき、何かしら明るいもの  
が見えてきました」

日常生活を歩む私が、何

をよりどころとして歩んで  
いくのか。私の「いのち」  
のよりどころとなり、いの  
ちを輝かせてくださるのが  
お浄土です。そのことを常  
にお念仏申すなかで気付か  
せていただくのです。  
(三原市大和町・浄業寺)  
11月24日から28日の鷺森  
別院報恩講の法話から

### 鷺森別院の催し

#### ■元旦会

1月1日、恒例の元旦会  
をお勤めする。午前7時か  
ら本堂で正信念仏偈行譜・  
和讃六首引をお勤め。引き  
続き書院で讃仏偈のお勤め  
のあと、高橋格昭輪番の年  
頭法話、お供えしたお酒を  
頂くご流盃の儀、梅こぶ茶  
とおつまみの接待がある。

#### ■春季彼岸会

3月20日から22日の3日  
間、恒例の春季彼岸会を本  
堂でお勤めする。午後1時  
30分からお勤め、2時ごろ  
から、尾野智行師(兵庫教  
区揖龍東組・西福寺)の法  
話を聴聞する。

#### ■常例法座

1月15、16日、横山大悟  
師(岐阜教区岐稲組・専琳  
寺)。2月15、16日、佐々  
木蓮乗師(兵庫教区宍粟  
組・西願寺)。3月15、16  
日、藤井義英師(備後教区  
比婆組・西教寺)。午後1  
時30分から3時30分。

#### ■子ども会

1月25日、新年のお茶会。  
お茶の指導は、御坊組常照  
寺の坊守・柳岡則子さん。  
3月下旬、遠足。西本願  
寺の参拝と京都市内の観光  
を予定(場所未定)。  
子ども会の対象は、幼稚  
園児、小学生。参加希望は  
随時、本願寺鷺森別院の担  
当・小山まで。